

## ディベート 議論の練習のためのゲームです。

1. 1つの論題について話し合う
2. 肯定側否定側に機械的に分けられる
3. 一定のルールに従う
4. 証明された議論を戦わせる
5. 審判によって判定が下される

特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟HPより

## ディベートの効能

1. 問題意識を持つようになる。
2. 自分の意見を持つようになる。
3. 情報を選択し、整理する能力が身に付く。
4. 論理的にものを考えるようになる。
5. 相手（他人）の立場に立って考えることができるようになる。
6. 幅の広いものの考え方、見方をするようになる。
7. 他者の発言を注意深く聞くようになる。
8. 話す能力が向上する。
9. 相手の発言にすばやく対応する能力が身に付く。
10. 主体的な行動力が身に付く。
11. 協調性を養うことができる。

Wikipedia ディベートより

## 論 題

- **価値論題：ある事柄に価値が認められるのかどうかを議論する**
  - 外科医の育成に体罰は必要である
  - 腫瘍内科にキャリアパスは必要である
  
- **事実論題：ある事柄が事実（正しい）かどうかを議論する**
  - 2025年までに外科医は絶滅する
  - 外科医の腕と離婚率は相関する
  
- **政策論題：ある事柄を実施すべきか否かを議論する**
  - 一定期間、医学部定員を二倍にすべきである。是か非か
  - 一定期間、勤務医の定年は75歳とすべきである。是か非か



DB-8 デイバート (8) 「転移性乳癌における原発巣切除 (する vs. しない) —その適応とタイミング—」  
 4月12日 (金) 14:30~15:30 第13会場 (福岡国際会議場 5階 502)

司会： 帝京大学外科 池田 正  
 北海道大学病院乳癌・内分泌外科 山下 啓子

DB-8-1 <する> 聖マリアンナ医科大学乳癌・内分泌外科 津川浩一郎

DB-8-2 <しない> Stage IV 乳がんの原発巣切除は不要である  
 国立病院九州がんセンター乳癌科 大野 真司

## 構成

### 立論

自説を論理づけて説明し、これから行うディベートの論点と論拠を明確にするパート。

### 尋問（質問）

相手の立論に対しての質疑応答のパート。  
目的は、相手の立論の内容で不明確な点があれば、それを明確にすること。

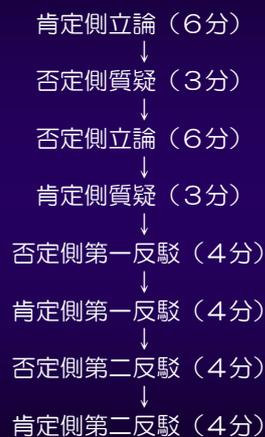
### 反駁（反論）

立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパート。相手の議論に対して反駁しない場合は、認めたことになる。

## フォーマットの例（競技ディベートの場合）

各スピーチでの持ち時間は、ステージごとに決められています。

・スピーチの順番は以下の通り。



・準備時間が、各スピーチの前に1分ずつ（肯定一駁・否定二駁・肯定二駁の前は2分）与えられる。

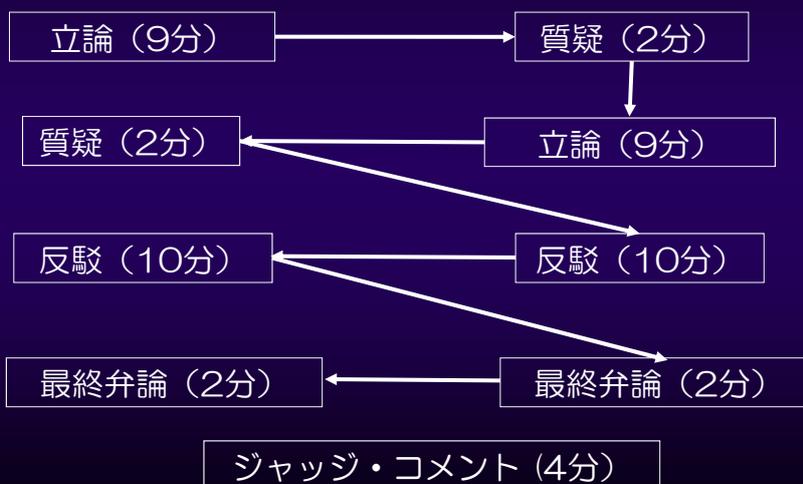
## ディベートの基本ルール

1. 非礼行為は慎まなければならない
2. 主張をジャッジに伝えなければならない
3. 時間を守らなければならない
4. 主張には根拠がなければならない
5. 相手の主張に反論しなければならない
6. 反駁で新しい議論を持ち出してはならない

## 本日の各ディベートの進め方 1ゲーム 50分

A (C) チーム

B (D) チーム



## Case 1

- HER2陽性乳癌、2年前Bp+Ax施行.
- 浸潤性乳管癌、グレード3, ER陰性、PgR陰性、HER2(3+).
- 咳嗽出現したため、胸部CT施行したところ多発性肺転移を認めた.
- HER2陽性MBCは脳転移が比較的多いと聞いたため、脳転移検索を定期的にするかどうか主治医として迷っている.

A) 定期的に脳MRIを施行する

B) 症状が出るまで脳に関する検査はしない

## Case 2

- グレード3, ER陽性(8), PgR(8), HER2(0)、浸潤性乳管癌、Bp+SLNB施行.
- n0, 残存乳房への照射施行.
- 術後フェマール内服中3年目に肝転移出現（最大計3cm, 4個）.
- パクリタキセル施行. 治療開始3ヶ月にてcCR。化学療法の副作用は軽度.

C) 化学療法を継続

D) ホルモン療法に変更

### Case 3

- 56歳閉経後、右乳癌 (T2, N0, M0; Stage IIA) でBt+SLNB施行.
- 病理結果 : Invasive micropapillary carcinoma, t=35mm × 30mm, n: 1/3 (SLN, 0.7mmの micrometa, 郭清は省略), HG:2, ER:8, PgR: 8, HER2: 1, Ki67<20%

A) 化学療法→ホルモン療法

C) ホルモン療法のみ

### Case 4

- 29才、閉経前、右乳癌 (T1, N1, M0; Stage IIA). MRIの広がり診断では1.5 cm程度であり、温存手術は可能。生検ではInvasive ductal carcinoma、ER2, PgRO, HER2 1+.
- 母親が35才の時に乳がんにかかり死亡している。姉が32才時に乳がんの手術を受けている。
- BRCA1/2遺伝子検査は受けていない。

B) このまま温存手術を勧める

D) 全摘手術 (+再建) を勧める